

大きく生まれ変わるJR長崎駅一帯

2022年度に新幹線の暫定開業を迎える長崎市の玄関口、JR長崎駅。駅一帯では大型開発がめじろ押しで、新幹線の終着駅となる長崎駅一帯の様相は大きく変わる。

昨年8月、JR長崎駅西側で長崎市が目玉事業であるMICE（コンベンション）施設「出島メッセ長崎」の起工式が行われた。3千人規模の会議や大会が開催できる大型施設で、長崎市は年間の利用者61万人、経済波及効果114億円を見込んでいる。その4カ月後、MICE施設の隣接地で高級ホテル「ヒルトン長崎」が着工した。世界17ブランド6千カ所のホテルを展開し、会員数1億人を超えるネットワークを持つヒルトン。MICE施設とヒルトンは21年11月に一体開業する。

JR九州も長崎駅に新たなビル建設を計画している。現在あるアミュプラザ長崎などが入る10階建てのビルのそばに13階建てのビルを新設する。下層階は商業、オフィスフロアとし、7階～13階には、高級ホテル「マリオット・ホテル」が入る予定だ。今後は商業フロアにどのような店舗が入るのか注目が集まっている。

駅周辺の開発はこれだけではない。駅の北側数百mの場所にある三菱重工業の工場跡地では、通販大手ジャパネットホールディングス（佐世保市）が再開発を計画している。



新しい長崎駅の在来線駅舎（左）と新幹線駅舎。西側には出島メッセ長崎、東側には新たな駅ビルなどが計画されている＝長崎市尾上町

ジャパネットはサッカーJ2、V・ファーレン長崎の親会社。現在、諫早市にある本拠地を工場跡地に移し、サッカー専用スタジアムを核にホテルや商業施設、オフィスなどを整備し、23年の開業を目指す。大型会議場にサッカースタジアム、二つの高級ホテル。ハード面での整備は十分なほどに整う。これらの施設をいかに生かし観光・地域振興につなげていくのか、関係者の手腕が問われることになる。

長崎新聞社 報道部長 永瀬徳豊



東側から見たヒルトン長崎の完成予想図（グラバーヒル提供）



JR九州が整備する商業施設やホテルを備えた新たな長崎駅ビルのイメージ。左は既存の駅ビル、右は新駅舎（JR九州提供）